

公開月例研究会講演記録〈第260回(2011.7.6)〉

「がんばれ福島！」

—震災復興の窓口 福島空港—

福島空港ビル株式会社代表取締役副社長

永澤 裕二

今日は、福島空港を中心にして、震災前後のお話をさせていただきます。お手元の資料は、6月27日現在の福島県災害対策本部のホームページから抜粋して、東日本大震災の経緯を簡単にとりまとめたものです。

地震の規模はマグニチュード9.0、最大震度7が宮城県栗原市で観測されるという、とんでもない地震が起きました。福島県内には59市町村あるのですが、12市町村で震度6強を観測しています。資料には須賀川市、白河市、富岡町、大熊町、浪江町を書いておりますが、それ以外に、原子力発電所の立地地点であります楢葉町、双葉町等も入っております。

なぜ須賀川市と白河市を書いたのかといいますと、須賀川市は福島空港の地元ですし、白河市も近くですが、ここの被災状況がほとんどニュースに流れていないからです。今回の被災で一番ニュースになったのは原発事故と津波の被害で、内陸部の地震の被害だけの地域はマスコミもそれほど大きく取り上げていません。須賀川市では市役所の庁舎が危険で立入りできないということで解体が決まっていますし、市街地中心部のビルも数棟解体になっていて、非常に被害は大きかったです。支援の手もなかなか来ませんでした。

阪神淡路大震災のとき、伊丹空港の所在地の豊中市も同じような状況で、中心地は非常に大きな被害を受けたのですが、新聞等ではあまり報道されなかったために、郊外に住んでいる市民には自分の市が被災していることすら分からなくて、「なぜ近隣町村を助けに行かないのだ」と、市役所にクレームがきたそうです。そういうこともあって、今回、大きな被害を受けながら、マスコミではあまり報道されなかった須賀川市と白河市を載せておきました。

震度6弱が21市町村で、福島空港のある玉川村、福島市、郡山市、いわき市、そして私が住んでいる西郷村その他です。ですから、合わせまして33市町村、福島県59市町村のうち半分以上が震度6を経験したことになります。

県内の被害状況ですが、人的被害では死者が1,690名、行方不明が279名、重軽傷者236名、住宅の被害は全壊が1万5,700棟、半壊が2万6,000棟。非住居では公共施設や工場、店舗などで1,000棟、その他が1万4,000棟に及ぶ建物に被害が出ています。

原子力発電所の事故を主な原因とする避難の状況ですが、避難指示が7万7,374名、避難勧告が7名、自主的に避難した方が7,215名、合計8万4,596名の方が、6月27日現在、避難生活を送っていらっしゃいます。そのうち福島県外に避難されている方が3万5,844名です。一番多いのが新潟県で7,615名、次が東京都で4,652名、そして栃木2,629名、埼玉2,610名など、全都道府県にわたって福島県民が避難しているという状況です。

福島空港は特に大きな被害はありませんでした。玉川村は震度6弱でしたが、福島空港の立地は地盤が固いということで選定した、それが立証できたという形です。国交省の官制タワーの窓ガラスが割れて落下した以外、ほとんど被害はなかったと言えます。空港ビルも、ダウンライトが5つぐらいぶら下がったのと、壁面等に小さなひび割れが数十箇所できた程度で済みました。

次に震災からの主な経過ですが、空港には国が管理している空港、自治体が管理している空港と、いろいろありますが、福島空港は県が管理運営している空港です。当社は福島県から土地を借りてターミナルビルを建設し、管理運営している会

社です。福島空港は、普段は札幌行き最終便が7時20分に出発した後、お客さんはいらっしゃいませんので、夜8時には閉めています。3月11日からは24時間運営を開始しました。

救難救助については、医療関係ではDMATが3月12日から14日まで空港ビルに滞在して、ここから県内外の活動に飛び立っています。救助関係では、シンガポール、韓国、ニュージーランドなどが福島空港を利用して各地で救助活動を行っております。韓国からは軍用機が来て驚きましたが、救助に軍用機が来たというのは初めてではないかと思います。

救援物資関係では、国から自衛隊機による全国各地からの物資の輸送がありました。航空自衛隊が空輸とハンドリングを対応して、陸上自衛隊が仕分け・運搬をするという体制でした。民間も医療関係機関などいろいろな医療物資を運んできました。京都大学の医学部から東北大学の医学部へトラックで医薬品を運ぶ際も、自衛隊機が福島空港まで運んでそこから陸送するという形をとっております。

次に航空機の利用状況ですが、福島空港は通常、国内線は毎日大阪便が5便、札幌便が2便就航しております。国際線はソウル便が週3便、上海便が週2便飛んでいました。震災後、国際線は止まっていますが、国内線は定期便以外に、羽田と名古屋の中部空港に臨時便が出ました。3月11日までは1日300人から400人の搭乗数でしたが、震災後一番多かった3月14日には2,600名近くの搭乗数を記録しております。ビル内は大変混雑いたしました。

地震発生から10日間ぐらいいは出発便のお客さまが多かったですけれども、それ以降は到着便の割合が増えています。例えばアサヒビールのスーパードライはすべて、本宮町という福島空港から車で25分程のところにある工場で作っています。そこが被災したものですから、本社から社長さんも来まし、技術者も来て復旧にあたりました。ほかの会社の工場でも復旧支援のための技術者等がたくさん来るようになりました。

国際線はソウル便が週3便、上海便が週2便飛んでいましたが、震災後は運休の状態が続いています。一番がっかりしたのは、週3便のアシアナ航空が4月から週5便になることが決まっていた

のがゼロになってしまって、当社も大変なマイナスを受けています。週3便というのは使い勝手が悪くて、午後出発して、夕方ソウルに着いてホテルに入るしかない。翌日1日遊んで、帰りの飛行機に乗るためには翌朝6時にはホテルを出ないといけないという、タイトなスケジュールしか組まませんでした。それが週5便になれば3泊4日、4泊5日ができるということで、日本人客の増加を楽しみにしていたのですが、びたっと止まってしまいました。

定期便・臨時便以外に、小型機や報道関係のヘリが離着陸を繰り返していて、多いときは1日36機来ています。

福島空港の売りの1つが2,300台収容の無料駐車場、これがほぼ満車の状態になりました。しばらく帰ってこない方がたくさんいらっしゃいましたが、最近ぼつぼつとお帰りになってきました。ところが、3カ月も車を置きっ放しですからバッテリーが上がってしまって、なんとかしてくれないかという対応も増えています。

原発事故後の3月15日、お昼過ぎに空港防災センター内で放射線量を計ったところ、1時間当たり2.16マイクロシーベルトでしたが、現在は0.3前後で推移しています。

以上、東日本大震災の被害等をざっと振り返って見ましたが、次に、具体的に福島空港で何が起きたかお話しさせていただきます。

まず震災が起きたとき、私は約30km離れた白河市におりました。地震が来て、駐車場に向かったところ、車がジャンプしている。タイヤが地面から離れて、駐車場でたくさん車がピョンピョン飛びはねている。その車にみんながみついているという状況でした。地震が収まっては、すぐまた地震が来る。そういう状況が30分ほど続きました。

余震がある程度落ち着いてから空港まで車を飛ばしました。その日は国道4号もそれほど込んでいませんでしたが、3~4時間かかり、会社に着いたのは19時ごろでした。職員の話では、地震が起きてすぐ、館内にいたお客さまをいったん表に出して、地震が収まってから館内に戻し、それからビル内の安全点検をしたということでした。

その日はいろいろな打ち合わせをしながら夜中の2時ごろまでターミナルビルにいたのですが特

に変わった様子はありませんでした。しかし、翌日から一変しました。午前2時から4時の間を除いて、3回線ある電話がすべて鳴りっぱなしです。「飛行機は飛んでいますか」、「乗れますか」、「空港へはどうやって行けばいいのですか」、「途中でガソリンを入れられますか」、「道路は通じていますか」というのがほとんどです。「どこでもいいから飛んでいますか」という不思議な質問も多く、原発が事故を起こして放射能が漏れたという話が伝わって、とにかく逃げたい、どこ行きでもいいから飛行機に乗りたいという方がたくさん空港に押し寄せました。

特にいわき市の方からの問い合わせが多かったのですけれども、いわき市の放射線量はそのころ、1から2マイクロシーベルトでした。国際放射線防護協会が出している健康に被害がないだろうという基準が年間200ミリシーベルトです。1時間当たりに直すと約22マイクロシーベルトですから、1桁違うわけです。ですから、「今の発表数値が正しければ、今すぐにどうこうという問題ではありませんよ。今勝手に避難したら行方不明となって、避難者認定がされない等今後いろいろな支援を受けるのも難しいですよ。もし避難するなら、必ず市役所に電話をして、それから避難してください」というお話をすると、4分の1ぐらいは納得されます。一番効いたのは、「今の状況ならば、たばこの害のほうが100倍以上危ないですよ」と言うのと、皆さん納得されます。

私も専門家ではないので受け売りの話になりますが、「200ミリシーベルト」の根拠になっているのは、放射線を1年間に200ミリシーベルトを浴びると癌の発生率が1%増えるということです。日本人が世界で一番癌の発生率が高くて、約50%ですから、ここにいる皆さんの2人に1人は、死ぬまでに癌にかかるという確率になります。その50%が1%増えて51%になる危険があるというわけです。

200ミリシーベルトというのはそういう基準だということですし、今問題になっているのはマイクロシーベルトの話ですので、それほど大騒ぎをする必要はないかとは思いますが、もちろん放射線を浴びないに超したことはありません。特に子どもさんについては症例がありませんし、細胞分裂が活発な時期ですので、できるだけ避けたほうが

いいとは思いますが、今すぐどうこうという問題ではない。そういうお話をして、大半の方々には納得していただきました。

電話回線がいっぱいになったもう1つの理由は、新聞などで空港のアクセス情報提供がほとんどなされなかったために、飛行機に乗りたくてもどうすればいいか分からない。高速道路は止まっている、バスも電車も止まっている。避難しようと思う方にとっては飛行機しかないのですが、空港に行くすべがない。その問い合わせが殺到しました。

実は私、一昨年(2011年)の10月1日から「副社長の青色吐息」というブログを始めまして、1日300件から400件のアクセス数だったのですが、3月11日から3月30日までの20日間の平均が2,200件を超えました。多い日は多分5,000件ぐらいのアクセス数があったのではないかと思います。多くの方がコメントを書いてくださいましたが、「どこに飛んでいますか。ダイヤを教えてください」、「予約を取るにはどうしたらいいですか」、「空港に行く途中でガソリンを入れられますか」、「ペットを乗せられますか」とか、ほとんどが具体的な質問で、120件ぐらい回答しました。新聞が報道していない中で、私のブログはその時期は1日数回更新して、ビル内の写真をつけたりしたものですから、おそらくそれを見たブロガーが自分のブログで紹介してということもあって、それだけの反響があったのかなと思います。

驚いたのが、「98歳のおばあちゃんをいわき市から避難させたいのだが、一人暮らしなので、とにかくリムジンバスに乗れと行って福島空港に向かわせた。あとはよろしく」というメールが大阪のお孫さんから来ました。お姉さんが千葉に住んでいて、羽田便は飛んでいましたので、その方が羽田から福島空港に来て、伊丹便におばあちゃんを乗せたら帰る。お孫さんが伊丹で迎えるということでした。リムジンバスの到着を待って、「98歳のおばあちゃん、いらっしゃいますか」と言ったら、みんながすぐ、「いるいるいる。ここにいる」と指差す方を見たら、元気そうなおばあちゃんでした。元気そうでも98歳ですので、うちの会社の応接室に簡易ベッドを用意して、そこでお休みいただいて、羽田から来たお姉さんに引き継いだということがありました。

避難者も、一番多い日で350名ほどの方が狭い福島空港のタイル張りのロビーにぎこ寝状態になりました。3月11日というのは寒い時期で、14日にも雪が降っています。子ども連れの方も高齢の方もいらっしゃいます。毛布をかき集めてお配りしたのですが、用意していたものは300枚しかない。300人以上の方がいらっしゃるわけですから、どうしたかといいますと、大震災の号外の新聞がどさっとまとめて配達になったので、それをみんなに配って床に敷いてもらってから毛布を配りました。なるべく1枚の毛布を2人でかぶっていただくと、お互いの体温で温まります。有料待合室には絨毯が敷いてありますので、そこも開放して、お年寄りや乳幼児や小さいお子さん連れの方にはそこに入れてもらいました。

とにかくパニックが心配でした。行く先も聞かないで飛行機は飛んでいるかという方がたくさんいらっしゃったわけですから、皆さんとにかく避難したい、我先に乗りたいとあせっています。人はどんどん入ってきて、キャンセル待ちの列は毎朝30mぐらいつながっている状況ですので、パニックが起きるのが一番怖かったです。

中にはボートと立ち尽くしている方も何人かいらっしゃいました。1点を見つめて、視点が全く動かない。そばに行っても話をすると、やはり放射能に対する恐怖なのですね。うちは赤字会社で、職員を35名から9名に減らしたものですから、なかなかそういう人のケアまで手が回りません。私が一番暇だったので、館内をぐるぐる回って、いろいろお話をさせていただきました。

ライフラインは、電気、水、ガスのうち、水以外は助かったのが幸いでした。空港のある玉川村は震度6弱で断水しました。空港ビルも2日分の上水は備蓄していて、その量が65トンです。ところが、予想外の人がたくさん来られて1時間に4トンずつ水を使うものですから、そのままでは1日も持ちません。

トイレが数箇所あるのですが、やむを得ずトイレを1箇所制限して、男子小用は水を止めました。それ以外は、洗面等に使った中水を溜めておく枡があったので、そこからバケツで汲んで、1箇所だけ開放したトイレの前にずらっと並べまし

た。係員を張り付けて、使用する方にバケツを渡して、「これで流してください」とお願いしたのですけれども、水道の復旧がなかなか見込めない。村全体が断水して給水車が走り回っているわけです。村に実情をお話しし、1トンの給水車でピストン輸送をしていただきました。なんとか2日目に水道が復旧して助かったという状況です。

もう1つ困ったのはガソリン、重油が手に入らないことでした。首都圏でもガソリンが手に入らない状況があったようですが、震災の翌日からスタンドが全部止まって、下手をするとパニックが起きるという状況でした。あの騒動の中、福島県で数人の方が亡くなっています。

車にガソリンを入れるために前の晩から並ぶのですが、ガソリンがないから並ぶわけですから当然エンジンは切ってしまいます。寒い時期ですから練炭火鉢を持ち込んで、朝、スタンドがオープンしても動かない車があると、中で死んでいるという状況が起きました。私も赤信号のたびにエンジンを切ったというのは初めてでした。まめにエンジンを切ってガソリンを少しでも使わないようにしました。

3日か4日過ぎてようやく、緊急車両優先の配給制みたいなかたちで、我が社には「1回当たり20ℓ、1日2人分」の割当がありました。自己申告で、もうすぐガス欠になるという車を選んで、裏口から行って給油してもらいました。表から行くと、我々は普通にスーツを着ているものですから、それを見た人は「別に消防署員の格好でもなんでもない、あいつは良くて、なぜ俺は駄目なのだ」という話になってトラブルが起きます。警察署から「この忙しいときに問題を起こすな」と言われて、裏口からということになりました。

暖房用の重油も底を尽きまして、電気でもやらざるを得ない。普通はビルを8時に閉めているので、そんなに暖房費もかからないのですが、1週間以上、24時間開けましたので、高額な電気代の請求書が来て困っています。

福島県は陸の孤島状態で、福島空港だけが県外へ脱出できる手段だったのですが、福島空港に来るための足もほとんど止まっていた。1日過ぎて12日に、郡山駅からリムジンバスが初めて福島空港に乗り入れました。翌日、太平洋側のいわきからのリムジンバスが通いました。15日、

郡山・福島間が開通しました。プロパンガスがなくなって、乗り合いタクシーも駄目になりました。16日に仙台と福島空港が結ばれて、17日に郡山と東京新越谷間の高速バスが通りました。それから会津若松までバスが通って、福島空港から新潟等へ行けるようになったのが1週間後です。おかげさまで3月19日、9日後にやっと夜間閉館できたという状況です。

復興に向けての課題ですが、今回の大震災で多くの方が「これは終戦当時と同じだ。終戦と同じ状況だ」というお話をされていますが、福島県民にとっては終戦ではなくて開戦の日なのです。岩手県、宮城県もそれぞれ大きな被害を受けられましたけれども、今まさに災害が終わって、復興に向けて動き始めています。福島県はまだ災害が現在進行形です。

今日もNHKのニュースでやっていましたけれども、福島県伊達市では、今まで半径20キロとか半径10キロとか、地域指定あるいは市町村単位で、避難区域、計画的避難区域等が指定されていたのですが、何を考えたのか、伊達市の家一戸一戸の、庭先と玄関先とどこと、3箇所ずつ測定して、3.2マイクロシーベルト以上の家屋については「避難してもいいよ。避難すればちゃんと支援するよ」という特定避難勧奨地点というのを始めました。同じ集落内でも、3.19以下であれば「避難する必要がないので、勝手に避難するなら自分でやってくださいよ」という制度です。

これは個人に責任を転嫁したものではないかと私は思っています。「あなたのところは逃げてもいいよ。ちゃんとしてあげるからね」「あなたのところは逃げなくていいのだから、勝手に逃げるのなら自前でやりなさいよ」というのは、制度上おかしい気がします。残った家の子どもは、放射線の濃度が高い特定避難勧奨地点の家のそばを通って学校へ通うわけです。果たしてそれで住民が納得できるかなという不安が残りますし、実際、今伊達市はそれで住民がもめています。

岩手県、宮城県は復興が進み始めましたが、福島県はまだ避難が続き、被害が拡大中です。もちろん岩手、宮城が早く復興してほしいと思いますが、福島県だけが取り残された場合、福島県の産業構造がどうなるのが心配です。

今働く場がなくて、県外あるいは県内の会津地

域などに避難されています。福島県外に3万6,000人の方が避難されていますが、小中学生は約1万人が県外に行っています。おそらく3万何千人というのは子ども連れの30代を中心とした若いご夫婦で、これから働く中心になっていく人たちが福島県からいなくなってしまうということです。

津波のように、波が引いたから帰ってきてそこでまた生活できるというのではなくて、今、放射性物質で汚染された土壌を測定している段階で、当分帰れないし、いつ帰れるかも分かりません。むしろ帰れないのなら帰れないと言ってほしいというのが本当の気持ちのようです。帰れると言うから、避難先で、正社員にならないで、アルバイトとして働き、帰るための準備をしています。あってはならないことですがけれども、もし本当に10年とか20年帰れないのなら、避難先での生活基盤を考えなくてははいけないわけです。

今その先の見通しが全然立たちません。いつ帰れるのか分からないし、逆にいつ出ていかなくてはいけないかも分からないという状況の中で、働く場がなくなり、働く人も福島県から流出しているというのが大きな問題だと思います。当然人口流出もどんどん増えて、このままでは福島県は過疎の県になってしまうと思います。

やはり、できるだけ地元に残りたいというのが福島県のおじいちゃん、おばあちゃんです。でも、若い人は、子どもさんの健康を心配して、また自分の将来や人生設計を考えて、県外に行って、そこで根を下ろして生活を始めてしまうでしょう。いずれにしても人口がどんどん減っていく危険性が大きいと思います。

実は福島県は東北6県で企業立地が毎年一番多かった県です。それはなぜかといいますと、福島県は首都圏に近い。港湾を持っている。飛行場もある。新幹線もある。高速道路は3本も通っている。土地が安い。人口も結構多くて、今210万いますので、働く人もたくさんいらっしゃる。そういう意味で福島県は企業立地しやすい場所だったのです。

デンソーも今年の4月から東北デンソーという新しい会社の工場を田村市に作って、約1,000人の雇用を生むということでした。ヤフーのデータセンターも白河市に立地が決まっていました。い

ろいろな企業が立地して、郡山市、白河市、いわき市、須賀川市、この4市で4兆円ぐらいの工業出荷額だったのが、今回集中的に震災で被害を受け、あるいは津波で被害を受けたという状況ですから、福島県が早く産業基盤を回復して、働く人にも帰ってきてもらわないと、帰ってくるべき人が帰れないまま、それぞれの土地で生活を始めてしまいます。私はこれが非常に怖いなと思っています。

もう1つは原発事故による風評被害です。これは実は2つ問題がありまして、1つは震災直後の風評被害です。これはもう終わってしまったので、今から言ってもしょうがないかもしれませんが、双葉町とか楢葉町とか福島県の浜通り、太平洋側の真ん中辺で原発事故が起きて、そこから半径10キロとか半径20キロとかいうかたちで避難区域等が決められたのですが、一番南の茨城県に隣接するいわき市は面積の広い市ですが、ほんの少しだけ20キロ圏にかかりました。ところが、「いわき市が避難区域になった」というだけで、水道を復旧するための資材が入ってこなかったのです。常陸太田までは荷物を運んでくれるけれども、そのトラックが福島県には入らない。復旧のための水道管の資材も茨城県境で止まってしまって入ってこない。宮城県境の相馬市でもやはり同じように、支障物資も入らなければ、復旧の資材も入ってこないという状況が起きました。

いわき市は特にひどくて、ようやく94%まで水道が復旧したのはちょうど1カ月後の4月11日の午前中です。ところが、その日の夕方余震でまた駄目になって、また資材を運べないというところから始まったわけですが、今は水道も復旧しましたけれども、最初のころの風評被害では、食糧も届かない、水も届かない、復旧のための資材も届かないということが起きました。

今は農産物・海産物関係が風評被害に悩まされています。福島の野菜は汚染されているから食べない、魚も駄目。工業製品も、ちゃんと放射線量を公的機関で測って何でもないという証明がなければ取引はやめるというケースが増えています。一部イベント的に、福島の野菜を食べようとか東北の物産を買おうとかいう動きがあって、品薄状態になったこともあります。それは一時的な現象で、今はまた売れない状況が増えています。

去年取った米も福島のもは買わないというひどい話もあります。去年取って、福島県に置いておいた米ではありません。取ってすぐに売りますから、関東の倉庫とか関西の倉庫に保存されていた米です。米は秋にならないと収穫できないので昨年取れたものですが、それさえも返品扱いになっています。

農作物もこの状況がいつまで続くかということですが、作っても売れないという不安と、果たして避難先から戻って作れるのかという不安と、補償金が入るからもう作らないという考えと、この3つの問題があります。

有機野菜に熱心に取り組んで、今後も農業を続けていきたいという若い専業農家の方も福島県にはたくさんいらっしゃいます。その一方で、農家の半分以上は60歳を過ぎていますから、無理して農業を続けなくてもいいという方も中にはいらっしゃいます。仮に避難解除になって故郷へ戻って土壌の検査をして、駄目だったら土壌改良する。機械も1年以上放置していればさび付いていたりしますので、機械のメンテもやらなければいけない。そこまでして作った福島の米や野菜を果たして全国の方が買ってくれるかどうか分らない。であれば、そんな苦勞をしてまた農業をやるよりは、年金も入るし、東京電力から補償金ももらえるはずだから、それで生活したほうが良いと考える方もいるやに聞いています。そのへんは非常に難しい判断かなと思います。

ところで、先ほどから原発の話をしていますが、今まで福島県を知らなかった方も「福島原発」で福島を知ったかもしれません。しかし、あれは「福島第1原子力発電所」ではありません。正しくは「東京電力福島第1原子力発電所」です。

災害が起きて以来、冷却するためにポンプで真水を循環させるとか、復旧作業をしていますが、あの循環の電気は東北電力の電気を使っています。福島県は原子力発電所を立地して40年間、1ワットも福島県で使っていません。すべて首都圏のために、電気を作り続けました。首都圏の電気の30%は、東京電力福島第1、第2原子力発電所が発電したものです。

もちろん原子力発電所を作った地元は交付金を貰いました。仕事もたくさんできました。今避難地域になっている楢葉町、双葉町、大熊町など、

原子力発電所立地地域の住民の多くは原子力発電所関連の仕事をしています。東京電力社員になっている方もいますし、メンテナンスのための関連会社、その下請け会社、孫請会社、またその下の曾孫請会社とか、原発関係で働いている人が1家族に1人は必ずいると言われていました。原子力発電所の立地によって地元にお金が落ち、仕事もできて、それで子どもを育て、生活できたというのは事実です。

ただ、誰も彼も喜んでいただけではありません。原子力発電所ができる前、あの地域は「東北のチベット」と言われて、ほとんど産業がなくて、林業と農業と漁業しかなかった。そこに、原子力発電所という、固定資産税も交付金もたくさん地元に着る、雇用も生まれるという産業が降って湧いて、生活のためにはそれを受け入れるしかなかったのです。そして子どもが生まれ、豊かになり、40年が過ぎて今回の事故が起きたわけです。

しかも、岩手県や宮城県と違って、福島ではまだ災害が終わっていないし、いつ終わるかも分かりません。今のスケジュールでは、年明けには安定的な冷却状態に入るかもしれないということですが、それが終わっても、汚染がどうだったのか、汚染されたところに果たして人が帰れるのか、まだ全然分からないわけです。

岩手県も宮城県も一生懸命復興を進めていますので、あと10年か15年で復興できるでしょう。それはそれで喜ばしいことですが、福島県はそこから先、10年単位で復興の時間がかかると思います。20年、30年経ったときに、そこに産業基盤がない、働く人がいないとなると、一体福島県はどうなるのか不安でいっぱいです。皆さん、支援してくれとは言いませんが、「福島県はまだ復興をやっている最中だよ」ということをぜひ忘れないでいてください。

震災直後、私の友人の息子が、東京の大学に行っているのですが、「お前のところは大変なことしてくれた。おかげでえらい迷惑だ」と友だちに言われたそうです。先ほども言いましたが、福島県は確かにお金を貰いました。でも、作った電気は全部、首都圏の方が使っているのです。そんなことを言われるのは心外です。結婚式で新潟県に行った車に「早く帰れ」とスプレーで落書きされたという報道もありました。真偽のほどは分かり

ませんが、関東圏では子どもがいじめられたとか、静岡県のコンビニとファミレスに「福島県ナンバーお断り」という張り紙があったという記事も載りました。放射線は伝染病ではありませんので、安心して福島の人と付き合っていたきたいと思います。

復興における物流及び人的輸送における航空産業の果たす役割について語れという宿題もいただきましたが、「震災直後に果たす役割は他の交通機関に比べて比較にならないほど大きなものがあつた」、これに尽きます。

先ほど言いましたように、3月19日、仙台とか会津若松とかそういうところにまでバスが通って、急に航空需要が落ちました。やはり高速道路の力は大きいですね。しかし、少なくとも震災直後、道路、鉄道が使えない段階では、航空路線でしか物資あるいは人を運ぶ術がなかったということは非常に大きなインパクトを与えました。ただ、それをマスコミは全然取り上げてくれませんでした。

震災後どうするのだ、今後の福島空港のビジョンを語れという難しい宿題も出ていますが、語れません。だってまだ原子力発電所の事故が収束していませんから。うちの会社だけではなく、今福島県の県民のほとんどは、原子力発電所の事故が収束しない限り、動きがとれないのです。いつ戻れるか分からない、いつ避難指示を受けるか分からない状況がまだまだ続いています。物を作っても、売れるかどうか分からない。もしかしたら子どもが癌になるかもしれないから帰ってはいけないと言われていたのです。そういう中で福島空港の今後の展望と言われても、実は全く分かりません。

今、福島空港の国際定期便は止まっています。実は福島空港は韓国からのお客さんが多かったのです。ゴルフ場がいっぱいあって、プレー費も安いのです。韓国便が4月から週3便から5便に増える予定でした。韓国からのゴルフのお客さんが乗り切れず、仙台空港に降りるお客さんを福島県のゴルフ場がマイクロバスで迎えに行くほどでした。それぐらい混んでいて、じゃあ5便にという話も出たし、韓国の旅行会社資本が白河市のゴルフ場とホテルを買収したのは昨年末です。「ゴルフをやるなら福島県」というのが定着して、韓国

の方も福島県内ゴルフ場の会員権をたくさん持っていますし、経営にも韓国資本がどんどん入っています。それが今は1便も飛んでいません。

国際線が全部止まっていて寂しいものですが、今イベントをたくさんやっています。先々週、「コスプレ大会」を福島空港でやったのですが、叱られました。「福島県は原発でがっかりして、みんな沈んでいるはずなのに、空の玄関に降りたら、なんだこのごまは」ということで、県のほうに投書が来ました。でも、そんなに下を向いてばかりいられません。もう十分みんな、下を向いちゃったのです。

震災後2カ月ぐらいまでは、県庁に行っても、県職員がみんな暗い顔をしていました。ロッカーも倒れて、傷だらけになった壁が傾いている、その中で仕事しています。被災者そのものなのですね。本当は、その中の10%の職員でもいいから、被災対応関係から頭を離して、将来の福島県をどうすべきか考えなくてはいけないのに、全員が下を向いて被災者なのです。県の本庁職員が避難所の管理に行く。県外でもお世話になっていますので県外の避難所にも行くのですが、それがみんなそういう状況で2カ月が過ぎてしまいました。

県民みんなが下を向いている。それでは困るから、これからはもうちょっと前を向いて考えようということで、空港でいろいろなイベントを始めたのですが、さすがにコスプレは叱られました。私も実はコスプレは嫌いだったのですが、にぎやかでしたね。コスプレイヤーの方が500人来ました。専属カメラマンが必ず付いて来ます。ギャラリーも付いてきて、父兄が付いて来ます。見物人も含め、1,000人以上集まりました。

その次の週、先週は紙飛行機の大会をやりました。広島県の戸田さんという会社の社長さんが日本折り紙ヒコーキ協会の会長さんで、滞空時間のギネス記録を持っています。この方が「飛ぶ紙飛行機のつくり方教室」を開催してくださったのですが、子どもさんがたくさん集まって、人の来なくなった国際便のエリアがにぎやかになりました。

震災後、コンサートを2回やりました。今月末はクラシック、来月下旬にはジャズのコンサートをやります。

福島空港はお客さんがいないので、イベントば

かりやっています。2年前は1年間に54企画しました。去年は64やりました。多分今年はそれを超すと思います。とにかく元気を出さないといけないので、今うちの会社のキーワードは「福島空港へ来れば 元気になれる!」と、アントニオ猪木みたいなことを言っています。

イベント会場に行きますと、ほとんど福島県内の子どもさんが来ているのですね。福島では外で遊ぶことができないから、子どもさんのストレスが溜まっています。会津地方ですとか私が住んでいる県南地方の方は放射線が低いものですから、そういうところでイベントがあると、親御さんが子どもさんを連れてきて、そこで遊ばせるという状況が続いています。友だちに頼んで、うさぎとか馬とか連れてきてもらって「ミニ動物園」をやったときも、子どもさんが動物達から離れないのです。

ニュースを見る度に親御さんが放射線のことを心配して議論するものですから、小学生の子どもさんが「私にはもう未来はないのね」と言うのだそうです。だからやっぱり、元気を出すしかないのです。元気を出すためには、皆様のバックアップも、とてもありがたいと思っています。ただ、福島県を金銭面で助けていただくというより、物を買ってください、遊びに来てくださいというのが私の願いです。

国はとんでもないことをやってくれたと、実は私は怒っているのですが、被災者は高速道路が無料になりました。私も被災証明を持っています。東北地区の一番南の新白河という私の家から9キロのところから乗るか、それ以北で降りるときに、被災証明書を出せば無料です。ただし、一般のゲートを通して降りるとき、被災証明書と通行証と身分証明の免許証を見せて、係員がチェックして通します。そのおかげで降り口が1キロ以上渋滞してしまいます。

被災証明書は茶碗1個割れれば貰えます。罹災証明書は住んでいる建物が全壊とか半壊とか一部損壊とかにならないと貰えませんが、被災証明書は皿1枚割れても貰えますから、みんな貰っています。それをみんなが使うわけですから、その区域内は当然渋滞してしまいます。ETCのゲートはススッと通れますが、ETCの出口まで行けません。降り口の渋滞が1キロ以上になりますか

ら、何のためにやっているのかなという気がします。

むしろ降りる車を全部無料にすればいいのです。そして罹災証明、被災証明を持っている人が東北以外のところで降りるときは、そのゲートで罹災証明を出して無料にしてもらえばいいわけです。今は被災または罹災証明を持っている地域内の人と中型トラック以上が無料です。一般乗用車は、今まであった日曜日の1,000円もなくなったし、早朝割引もなくなりましたから、誰も東北には来ません。被災地にとっては人が来てお金を落としてもらうのが一番ですから、とにかく東北に来て、そこで降りれば只となれば、往復を考えれば5割引きです。料金所に人がいなくても通過できるわけですから、チェックする人の人件費もかかりません。

お役所が考えると、そこをちゃんとチェックする。茶碗1個割れば貰えるような紙をチェックする必要があると思いますか。そんな手間と人件費をかけるぐらいなら、むしろどこからでも来てください。復興支援でもいいし、観光旅行でも何

でもいい。とにかく来てくれればお金が落ちるわけです。来てくれるためには、「往復考えれば半額だよ。5割引きだよ」というほうがよっぽど効果があると思うのです。今のやり方では出口の渋滞が激しくて、緊急の場合は使えません。場所にもよりますが、休日は特に渋滞がひどくて、みんななるべく高速を使わないような状況になっています。

福島県は修学旅行客が多かったのですが、これも9割がキャンセルになりました。良い温泉旅館がいっぱい空いています。観光地もガラガラで、ゆっくり楽しむことができます。皆さん、是非福島へお出で下さい。

今回の3月11日で日本の価値観は変わったと思います。やはり身の丈に合った生活をすべきだと思った方もたくさんいらっしゃいます。そういう問題提起のためとしてはあまりにも代償が大き過ぎたと思いますし、福島はまだ何も終わっていません。今後もどうぞ福島県に寄り添っていただきたい。そのことを特にお願ひして、話を終わらせて頂きます。ご清聴ありがとうございました。

1 東日本大震災の被害等

1) 地震規模等（2011.6.27 現在福島県災害対策本部発表から抜粋）

マグニチュード	9.0
最大震度	震度7（宮城県栗原市）
福島県内の震度	震度6強（須賀川市，白河市，富岡町，大熊町，浪江町等） 震度6弱（玉川村，福島市，郡山市，いわき市，西郷村等）
福島県内被害状況	人的被害 死者1,690名，行方不明279名，重軽傷者236名 住家被害 全壊15,767棟，半壊26,208棟 非住家 公共建物1,015棟，その他13,990棟
避難の状況	避難指示77,374名，避難勧告7名，自主避難等7,215名 合計84,596名（内県外避難35,844名）

2) 福島空港の被害

・ CAB管制タワー	窓ガラス損壊等
・ 滑走路・誘導路・エプロン等	特に被害なし
・ 空港ビル	特に被害なし

2 震災からの主な経過

- 1) 震災発生 3.11. 14:46 直ちに空港ビル内の被害状況確認
 14:55 滑走路・誘導路・エプロン点検，場周道路等の調査
 15:30 福島空港対策本部設置，スポット調整方針，紹介対応等の確認
 23:30 国交省航空局と報道用ヘリの取扱調整

2) 空港24時間運用開始

3) 救難救助関係

- ・ 医療関係 DMAT 3.12～14 滞在 富山，鳥取県等の医療10チーム
- ・ 救助関係 シンガポール 3.12 自衛隊機で到着（隊員5名，捜索犬5匹，南相馬市へ）
 韓国 3.14 軍用機で到着（隊員125名，救援物資，仙台市へ）
 ニュージーランド 3.14 自衛隊機で到着（民間レスキュー隊員5名，宮城県利府町）

4) 救援物資関係

- ・ 国関係 自衛隊機により全国各地から，毛布，水，食料等
 空自が輸送・ハンドリング対応，陸自が搬送仕分
- ・ 民間 医療関係機関，ロータリークラブ関係機関等が，地元病院へ医療物資の搬送
- ・ 外国 アシアナ航空 3.14 毛布，水，カップ麺
 韓国（光州市を含む） 3.14，3.17 水等
 ロシア 3.14 発電機，水，食糧等

5) 航空機利用

- ・ 定期便・臨時便
 3.11までは，国内線3～400人程度であったが，翌日から急激に増加
 3.13からは，羽田，中部の臨時便発着
 3.14には，2,582人のピークを記録
 3.21までは出発便搭乗が多かったが，その後は到着便の割合が増加
 4月に入り8～900人で推移
 アシアナ航空3.19～6.30休航，中国東方3.17～7.31休航

- ・ 小型機 報道関係を中心に 3.12 の 36 機がピーク，その後は 1～3 機
 - ・ 自衛隊・消防等
3.12 をピークに，3 月中に 550 機超が発着
3 月中は毎日自衛隊機による救援物資輸送あり
4 月に入り，自衛隊，消防，警察関係が主体で，物資輸送は殆どなし
- 6) 駐車場利用 (2,300 台収容)
- ・ 航空機の出発利用増に対応して，3.17～26 が，ほぼ満車
 - ・ 4 月に入り，到着便の利用増に伴い，減少
- 7) 放射線量
- ・ 原発事故後の 3.15 12:45 空港防災センター内で $2.16\mu\text{Sv/h}$
その後漸減し，4 月に入ってから $0.13\sim 0.54\mu\text{Sv/h}$
- 8) その他
- ・ ターミナルビル内の夜間利用
3.11 のビル内は，400 名程度の国内外の報道関係者等が夜間利用
3.22 まで，夜間の利用（キャンセル待ち，報道関係，元発事故避難者等）が続く
 - ・ 上水道の逼迫
玉川村水道断水により，新たな給水ができなくなったことに加え，救援関係者，キャンセル待ち乗客，避難者等，ビル利用者増加により，上水が逼迫（毎時 4t）.
貯水槽（有効容量 65m^3 ）が底を尽き始め，玉川村による給水車により給水しながら，2 日間利用制限. 3.14 水道復旧.